資料１０

令和５年９月 21 日

令和５年度　第３回沖縄県がん診療連携協議会

（八重山のがん患者を支援する会）やいまゆんたく会　活動報告

1.　市長とランチミーティング

日時：令和５年８年月 25 日（金）　正午〜

場所：市役所庁議室

内容：市長と話し合いたいテーマ

①がんの早期発見と治療が行える体制づくりを図る為に、市の特定検診に５大がんと言わ れている「胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん」の検査を現在オプションとなっている検診項目にセットして実施できないか。がんの検診率アップでがんの早期発見と患者数の減少、患者の治療費の削減及び精神的負担の軽減を図って頂きたい。

②県立八重山病院は八重山諸島で唯一の地域がん診療病院としての機能を有しているにも関わらず、諸がん専門の医師配置がされずに機能を十分に活かせていないと思われる。患者会の会員のほとんどが島外や県外の医療施設で治療を受けている現状にある。沖縄県の問題ではあるが石垣市、市議会からの強い要請や働きかけを行って欲しい。

③「やいまゆんたく会」という八重山のがん患者を支援する事を目的に、平成 24 年に設立されたがん患者会があるという事が、がん患者の皆さんに殆ど知られていない。市長とのランチミーティングを通して、やいまゆんたく会の紹介ができ、一人で悩んでいる多くの患者さんの心の支えと支援ができる体制を目指していきたい。

④患者会活動費の支援お願いについて

コロナ禍前までは、石垣市の健康福祉まつりとセットで開催されてきた「離島がんフォーラム」が一般社団法人沖縄県がん患者会連合会の解散により、本市における今後の開催が予算的に難しい状況にある。会場の無償提供や講師の謝金等の支援を頂き、今後も開催ができるよう行政のご協力を頂きたい。

2.定例会　（毎月第２土曜日）

会員同士の情報交換や健康促進運動等を行い、交流を図っている。

以上

がん検診の受診率向上を

市長とランチミーティング

専門医配置など要望

ランチをしながら石垣市長と市民団体が、ざっくばらんに意見交換する第86回「市長とランチミーティング」が25日、石垣市役所庁議室で開かれた。本年度4回目は「八重山のがん患者を支援する会・やいまゆんたく会」（田盛亜紀子会長、会員19人）の会員8人が参加。がん検診の受診率向上に向けた取り組み、県立八重山病院にがん専門医の配置などを訴えた。

同会は、2012年に八重山地域のがん患者を支援する目的で発足。コロナ前は会員が30人近くいたが、コロナにより会活動が低迷し、会員が半分近く減った時期もあった。現在は、毎月第2土曜日午後2～4時に健康福祉センター1階研修室で定例会を行うなど、徐々に活動を再開させている。

中山義隆市長とランチミーティングで意見交換をする「八重山のがん患者を支援する会・やいまゆんたく会」＝25日午後、庁議室

今回は▽がんの早期発見と医療費削減へ「胃・肺・大腸・乳がん・子宮頸（けい）がん」の検査を特定検診にオプションとして組み入れる▽八重山病院にがん専門医師の配置▽やいまゆんたく会の活動周知▽市主催の健康福祉まつりと同時開催される「離島がんフォーラム」への財政的な協力要望―の4点について意見を交わした。

市民保健部によると、市特定検診（集団検診）では大腸や肺がん検査を希望者対象に行っている。がんの集団検診は石垣市の補助が入り、受診者の個人負担は数百円。個別に医療機関で検査すると千円以上になる。ただ、集団検診でも乳腺エコー検査は3千円。

同部は、沖縄本島から輸送する特定検診のバスや人員、日程の関係から現在の検診体制を崩すことは「厳しい」とし、なるべく特定検診での受診を呼び掛けた。がん検診の個別費用の補助は可能かどうか調査する。

中山市長はあいさつの中で「（がん検診の）検診率が上げられるよう詳細を詰めて、いい結果が得られるようにしたい」と述べた。

がん専門医の配置について中山義隆市長は、週に数回ずつ、県立宮古病院と八重山病院で診ることができないか、確認する意向を示した。

2023年8月26日 八重山日報

「特定検診にがん検査を」

患者支援団体が市と会談

八重山のがん患者を支援する団体・やいまゆんたく会(田盛亜紀子会長)は25日、中山義隆市長ら行政関係者と市役所で会談した。がん検査を特定検診とセットで受診できるよう調整することなどを要請。中山市長は「市民の健康を守るために、様々な事の詳細を詰めて考えていきたい」と応じた。

現在、市で実施されている特定検診では、40歳から74歳までの国民健康保険加入者を対象に、無料で尿検査や血圧測定などを行っている。

一方で、健康増進法に基づくがん検診は「オプション」(大城智一朗市民保健部長)とされており、個別受診の際は肺がん検診で1200円(昨年)、乳がんのマンモグラフィー検査で1900円(同)の自己負担が発生する。

同会は「検診率を上げ、がんの早期発見を実現するために、特定検診とがん検診をセットで実施してほしい」と要望。田盛会長によると、会員などから同様の意見が数多く上がっていると言い「積極的に受診ができるよう、市が率先して取り組んで。最初は大変でも、がんに苦しむ患者が減れば、結果的に医療費の削減につながる」と強調し、市に対応を求めた。

大城部長は「財政的な側面もあるので、この場では返事しづらい。検診の日程も限られており、現状では厳しいが、方法等は調査する」と答弁。

だが市の関係者は会談後、八重山日報社の取材に「がん検診は20歳以上の石垣市民であることなどを条件に実施している。対象が(特定検診と)異なるので、難しいのでは」と難色を示した。

また、田盛会長らは、県立八重山病院に諸がんの専門医が配置されていないとして「八重山唯一の地域がん診療病院としての機能を生かせていない。患者のほとんどが島外で治療を受けている」と指摘。市と市議会から県に改善を働きかけるよう要請した。市当局は「宮古島市など、他の自治体の状況を調査する」とした。

このほか、やいまゆんたく会の存在をがん患者にアピールするため、市がPRに協力することや、活動費の支援などを要請した。

会談は、行政側と市民が直接、意見を交換する企画「市長とランチミーティング」の一環で実施された。ミーティングはコロナ禍で一時中断していたが、ことしから再開した。

中山市長に要請項目について説明する会員ら＝25日、市役所庁議室